分科会の記録　第１分科会　教育課程に関する課題

【提言２　研究主題】
「カリキュラム・マネジメントを生かした魅力ある学校づくりに向けて」
～社会に開かれた教育課程における義務教育９年間の学び～

【提言者】小城多久地区教頭会　小城市立芦刈中学校　大串　厚子

【協議の柱】

義務教育９年間の教育活動の質を高めるため、カリキュラム・マネジメントの３つの側面である、

① 児童生徒がこれからの時代に求められる資質・能力の育成に必要な各教科等の「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善がなされているか。
② PDCA サイクルの確立がなされているか。各教科等の年間教育目標にたどり着けているか。
③ 資源の活用がなされているか。それらの側面を生かしながら、副校長・教頭としてどのように教師一人一人と関わっていけばよいか。また、どのような取組が有効か。

を考える。

【協議内容】

・研究仮説の「義務教育９年間の教育活動の質が高まる」において、職員の実践を共有し合うことが質を高めることにつながると考えている。アンケートについては、まとめたものを公表することで、副校長・教頭は共有でき、さらに質を高めることにつながると考える。
・資源の活用は、地域や学校規模が違うと活用の仕方も変わってくる。また、小学校と中学校の違いもある。小学校では学校の中に地域の人が入って行い、中学校では地域に生徒を送り出して行うことが多く、大きく違う。
・地域人材の発掘、地域の力を学校の教育にどう生かすかなどの事例
　◇芦刈観瀾校コミュニティスクールの地元消防団による体育大会砂ぼこり対策の水まき。
　◇小城市文化協会による家庭科授業の着付け手伝い。
　◇牛津高校の調理科の生徒による小学校調理実習の手伝い。
　◇各学校の農作物、昔遊び、歴史講話等人材活用。
・教師一人一人の当事者意識、モチベーションをどのように改善していくのかが大切になる。例えば、人事評価を絡めながら、カリキュラム・マネジメントの側面をどう意識させていくのか。教頭として職員のモチベーションを高める助言や称賛をしていく必要がある。
・「主体的・対話的で深い学び」への授業改善をしようとしない現状があり、悩みとなっている。
・地域人材の活用は各学年で動いていて、他学年の様子がわからない状況だったので、今年度から全学年で共有できるように取り組んだ。

【指導助言】学校教育課　指導主幹　浦　貴仁　氏

・今でもカリキュラム・マネジメントの理解が十分ではない教員が多い。一部の職員が行うものと思っているが、全職員で行うものである。芦刈中学校のような取組が必要である。
・教員のカリキュラム・マネジメントの理解が高まっていたら、教育の質も高まっていく。具体的なプロセスを PDCA サイクルで改善していくことが大切である。振り返りを次の時間にどうつなげていくのかが大切である。